

「Ohne Titel」

基礎教育 田中康二郎 Kojiro Tanaka



立体をイメージすることとは、それによってつくられる空間を同時に想定することである。何かしらの素材によって形作られる立体が、プラスの形であると規定すれば、それに伴って出現する空間はいわばマイナスの形ということである。このマイナスの形をイメージすることにより、新たな空間認識を獲得することができる。その意識を持ちながら、思考の道筋に何らかの刺激を与える試みが、新たな創作の、その先の思考の可能性を大きく広げることになるように思う。素材を見つめ、触れながらイメージの発芽を待ち、次の創作に取り掛かることを繰り返すのである。



Ohne Titel'12-Nr.1



1979年東京芸術大学大学院美術研究科終了、同大学非常勤講師を経て83年ドイツ政府給費留学、86年帰国し、慶應義塾高校に教諭として勤務後98年文部省教科書調査官就任、2015年東京工芸大学教授就任。石材を中心に彫刻制作を行い、国内外の彫刻シンポジウムに参加。個展、グループ展を中心に発表活動を行う。



Ohne Titel'15-Nr.2